

1. 社会・治安情勢

(1) リオデジャネイロ州全域でけん銃や小銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

特に2016年以降、リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり、オリンピック・パラリンピックの終了後から急激に体感治安が悪化している。

(2) 依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸、幹線道路沿いで発生しており、治安当局もこれらの取締りを強化しているが、健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど、警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

(3) また、リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に、敵対する麻薬密売組織間における抗争が激化するとともに、UPPをはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦が頻発しており、流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

さらに、幹線道路等においては、積荷を積載した車両を襲撃し、車両ごと強取る積荷強盗が多発しており、喫緊の課題となっている。

(4) これら課題に対処するため、昨年2月16日以降、大統領令による連邦政府主導の治安対策が試みられ、一定の成果は得られたものの、その根絶には至っていない。

(5) リオ州政府としても、連邦政府主導の下、治安を担当する公安局が中心となり、治安回復に取り組んではきたものの、州の財政難による警察官新規採用枠の縮小や装備・資器材の故障、殉職・離職警察官の増加、組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方、凶悪犯罪は頻発しており、予断を許さない状況にある。

(6) また、長引く不況を背景として、リオ市内におけるホームレスの数も数年前と比較して激増しており、麻薬中毒者が街中を徘徊するなど、こうした状況が体感治安の悪化に拍車を掛けている一つの要因とも言える。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) リオ州公安局統計院（ISP）によれば、2018年中のリオ州内における殺人事件発生件数は4,936件で、前年と比べて410件（7.7%）減少している。一方、強盗事件発生件数は23万1,624件で、前年と比べて1,187件（0.5%）増加しており、2003年以降最悪を記録している。

(2) 第3四半期中、コルコバードの丘周辺やコパカバーナ海岸、大聖堂周辺等

の観光名所において、邦人観光客が被害者となる強窃盗事件が続発しており、同所を訪れる際には注意が必要である。

- (3) このほか、麻薬密売組織間抗争を背景として、ファベラ周辺における治安が悪化しており、この流れは、これまで比較的安全と目されてきたリオ市南部地区においても例外ではなく、流れ弾等に対する細心の注意が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況 2018年10月（対前年同月比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	378 (-108)	99 (-47)
強制性交等	488 (-15)	148 (+11)
商業施設強盗	452 (-173)	216 (-72)
住居侵入強盗	95 (-9)	29 (-10)
車両強盗	4,243 (-23)	2,104 (+73)
通行人強盗	7,368 (-82)	3,691 (-47)
交通機関内強盗	1,446 (+252)	892 (+211)
携帯電話強盗	2,482 (+239)	1,297 (+76)
強盗総数	19,153 (-286)	10,027 (-88)
窃盗総数	12,368 (-674)	6,881 (-720)
取扱件数	65,589 (-2,414)	31,427 (-1,599)

4. リオ市南部犯罪発生状況 2018年10月（前年同月比増減数）

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

殺人	0 (-2)
商業施設強盗	15 (-12)
住居侵入強盗	3 (±0)
車両強盗	58 (+40)
通行人強盗	149 (+39)
交通機関内強盗	10 (-6)
携帯電話強盗	59 (+22)
強盗総数	337 (+84)
窃盗総数	431 (-37)

【コパカバーナ地区】

殺人	1 (-1)
商業施設強盗	15 (±0)
住居侵入強盗	2 (±0)
車両強盗	2 (±0)

通行人強盗	63 (-6)
交通機関内強盗	9 (+3)
携帯電話強盗	27 (+7)
強盗総数	162 (+4)
窃盗総数	559 (+3)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	2 (-3)
商業施設強盗	6 (±0)
住居侵入強盗	2 (±0)
車両強盗	16 (+8)
通行人強盗	41 (-11)
交通機関内強盗	1 (-4)
携帯電話強盗	13 (-1)
強盗総数	104 (-2)
窃盗総数	268 (-63)

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）リオ市ラランジェイラス地区サン・サルバドール広場における傷害事件

10月28日（日）午後8時頃、リオ市ラランジェイラス地区サン・サルバドール広場（Praça São Salvador）において、今次大統領選挙を巡り口論となり、ボルソナーロ支持者らがアダッジ支持者らに対して、花火を発射したり、瓶で殴打するなどの暴行を加え、歴史教諭1名が顔面を裂傷した。

（2）スキミング被害

観光客2名は、11月25日（日）午後0時頃、リオ市イパネマ地区ビスコンデ・デ・ピラジャ通り（Rua VISCONDE DE PIRAJA）所在のブラデスコ銀行の同一ATM機において（同機のみ稼働中）、クレジットカード等を用いて現金を引き出し、宿泊先のホテルに戻ったところ、両名ともに不審なカード履歴情報を携帯端末にて受信、本件事案を認知した。

（3）「シャペウ・マンゲイラ（スラム街）」における外国人観光客の流れ弾被害

12月6日昼頃、リオ市南部レーメ地区の『シャペウ・マンゲイラ（Chapéu Mangueira）』において、オランダ人観光客（56歳）が娘と共に『Bar do David』にて昼食をとっていたところ、麻薬密売組織がリオ州軍警察のUPP（平和構築部隊）に向けて発砲した流れ弾を受けて負傷、同観光客のほか、リオ州軍警察官1名が顔面に銃撃を受けて負傷した。

6. 邦人被害

(1) 窃盗事件（置き引き）

被害者らは、平成30年12月14日（金）午後3時頃、リオ市コパカバーナ地区コパカバーナ海岸において海水浴をしていたところ、水売りから親しげに話しかけられ、これに対応していたところ、脇に置いておいた旅券等在中のリュックサックを窃取された。

(2) 窃盗事件（ひったくり）

被害者は、平成30年12月16日（日）午後11時頃、友人らと共に、リオ市コパカバーナ地区ノッサ・セニョーラ・デ・コパカバーナ大通り所在のレストラン『STALLOS』において食事をしようとしたところ、友人らから所携のバッグが開いている旨指摘を受け、内部を確認したところ、iPhoneがなくなっていたことから、本件被害を認知した。

(3) 強盗事件（けん銃所持）

被害者らは、12月22日（土）午後6時頃、リオ市チジュッカ国立公園のコルコバードの丘を観光後、同地観光専用の15人乗り車両（バン）にて市内に戻るため、パイネイラス通りを移動中、けん銃を所持した男1名が同車両を停車させて車内に乗り込み、車内にいた被害者らに銃口を突きつけながら金品等を要求し、携帯電話機や現金などを強取した。

(4) 強盗事件（ナイフ所持）

被害者は、12月30日（日）午後2時頃、リオ市セントロ地区カテドラル（大聖堂）周辺を観光していたところ、ナイフを所持した男が眼前に現れ、金銭や携帯電話機等を強取された。

(5) 窃盗事件（ひったくり）

被害者は、12月31日（月）午後9時頃、リオ市コパカバーナ地区コパカバーナ海岸を散歩していたところ、10名位の少年が眼前に現れ、そのうちの何者かにバッグ内の携帯電話機1台を窃取された。

7. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

8. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。

2018年10月から12月までの間、リオ州内で短時間誘拐15件（年間103件）、恐喝381件（年間1,548件）が発生しており、いずれも高い水準で推移して

いる。